



自然の解説者

夏季号 [第 32 号] 2011 年 7 月 4 日

NPO 法人
ぐんま緑のインタープリター協会紙
事務局：〒375-0011 藤岡市岡之郷 1179-3
櫻井昭寛 方
電話・Fax 0274-42-2726
<http://orange.zero.jp/asakurai.oak/>
編集：総務・企画部会

公開講演会「赤谷プロジェクトの目的と現状」

平成 23 年 4 月 10 日 群馬県生涯学習センターで開催した当協会主催の講演会の資料要約
講師 林野庁関東森林管理局 赤谷森林環境保全ふれあいセンター所長 鈴木 綾子 氏

赤谷プロジェクトは、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる、約 1 万ヘクタール（10km 四方）の国有林「赤谷の森」を、地域住民で組織する「赤谷プロジェクト地域協議会」、(財)日本自然保護協会、林野庁関東森林管理局の 3 つのセクターが中核団体となって、協働して生物多様性の復元と持続的な地域づくりを進める取り組みです。

講演内容

生物多様性とはなにか？生態系サービスとはなにか？生物多様性の現状と最近の動向について教示して頂き、赤谷プロジェクトの取組みを紹介して頂きました。

赤谷プロジェクトがめざすものは、生物多様性の復元と持続的な地域づくりです。本来、そこで生きている様々な動植物が生きていける自然環境に戻すことと、同時に豊かな自然環境があることによって、地域の人々の暮らしが良くなることが重要です。

協働 3 者はそれぞれ

- ① 関東森林管理局では、国民のニーズ多様化に対応して、森林の多面的機能を高度に発揮させるため、その実践的な知識・経験を得る。
- ② 日本自然保護協会は、人と自然の上手な付き合い方の模索。
- ③ 地域協議会は、地域の特色を活かした振興策と野生鳥獣被害への対策、環境教育の受け皿。

の期待のもとで活動しています。

赤谷の森管理経営計画には

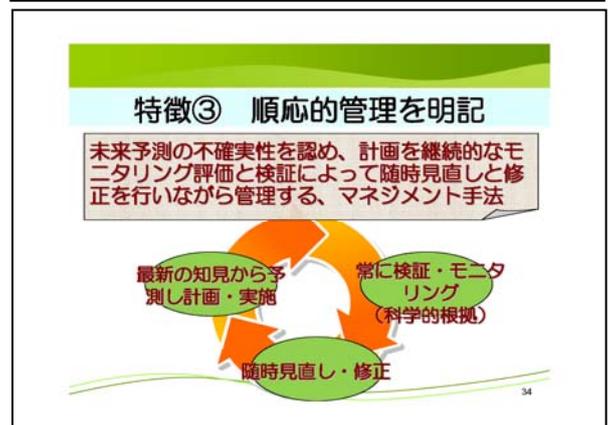
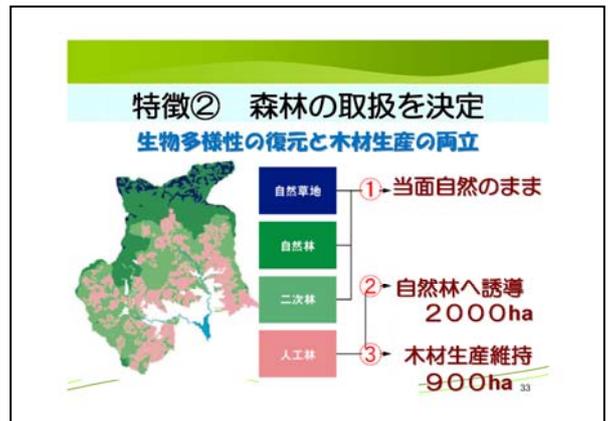
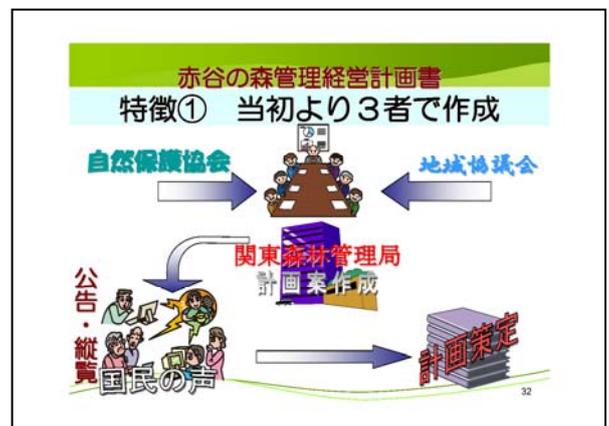
- ① 官民協働の森林生態系管理として、当初から 3 者で企画運営会議を開き、国有林の管理経営計画書に反映させていること。
- ② 生物多様性の復元と木材生産の両立をめざし、森林の取扱を決定していること。
- ③ 未来予測の不確実性を認め、計画を継続的なモニタリング評価と検証によって随時見直しと修正を行いながら管理するマネージメント手法の順応的管理を明記していること。

の特徴があります。

赤谷プロジェクトでは、今後さらに

- ① 科学的知見から自然再生を推進すること
- ② 地域の理解と協力を得て、地域のニーズを踏まえた取組の実施、民有林との連携、成果の普及・活用を推進していきます。

実現するには時間が必要ですが、生物多様性の復元と持続的な地域づくりを、他地域へも拡大していきます。



<協会活動のトピック>**平成 23 年度 自然の解説者養成講座**

当協会主催の「自然の解説者養成講座」は、ついに節目の 10 期生を迎えることになりました。今年度は受講生募集の時期に合わせるかのように東日本大地震に襲われ、群馬日産グループのご協力により上毛新聞に募集広告を掲載したのですが、思うように受講生が集まりませんでした。講座が催行出来ないのではないかと心配しましたが、再度の上毛新聞への広告掲載や協会員のロコミなどにより、その後順調に集まり、25 名の応募がありました。



開講式を 4 月 24 日(日)に前橋市総合福祉会館で行いました。亀井健一理事長から協会の歴史や活動に関して詳しい説明があり、受講生はメモを取ったりして聴き入っていました。

来賓として出席頂いた県環境森林部緑化推進課高井光夫次長および前橋市教育委員会青木博指導部長より祝辞を頂きました。その後、講座の進め方についてのガイダンスをして開講式は無事終了しました。

続いての第一回講座では、小崎正一講師より「自然の解説者とは何か、その役割」について講義があり、住んでいるところやニックネーム、「自分にとって自然とは」「この講座を通じて誰にどんなことを伝えたいか」を、一人一人に発表してもらい、自然解説者についての認識を新たにし、また親睦を深めることにもなりました。

覚満淵のササ刈り作戦 5 月 1 日(日) 赤城山の自然保護活動推進協議会主催

覚満淵においてササ刈り作戦が開催され、当協会からも緑のインプリの森部会を中心に協会員 16 名が参加しました。

ササが繁茂し光を遮っているために、ニッコウキスゲなどの野草が衰退しているため、ササを刈ることでもとの植生を復活しようとする活動です。

秋に 2 回目のササ刈り作戦を行うことになっています。

**小根山森林公園自然観察会** 5 月 7 日(土) 第 2 回会員資質向上研修 総務企画部会

講師に長島成和氏(群馬県林業技士会所属、林業技士)を迎え、協会員 26 名の参加を得て、小根山森林公園で樹木についての研修を行いました。

この森林公園は松井田町横川の北方にある 91ha の国有林で、約 100 年前から造林方法などの試験研究の場として多数の樹木が植えられてきました。今では公園として一般に開放されています。

長島講師の軽妙洒脱な解りやすい樹木の説明を聞きながら若葉の萌えだした森を 4 時間ばかり散策しました。二段植林や点状植林、あるいは唐松と樺の混淆林の行方など研究の成果も興味深く聞きました。この公園では、樹木が整然と植えられているので、勉強のためにこれからも大いに利用されると良いと思います。

**室沢交流の森整備** 5 月 14 日(土) 緑のインプリの森部会

協会員 9 名が参加して 2 回目の森林整備を行いました。今回から本格的作業となり一日、精力的にササ刈りを行いました。サンデンさんの強力なチップパーの導入で作業は一段とはかどり、広範囲にわたり整備ができました。

**緑のインプリの森整備** 6 月 12 日(日) 緑のインプリの森部会

午前は森の会主催の「国際森林年」イベントとして地元小学生との交流予定でしたが、中止となったため、急遽、午後の予定のインプリの森の整備に切り替えました。

協会員 9 名が参加して今年度初めての整備となりました。全体の見回りの後、歩道の修繕、立ち枯木の伐倒、整理を行いました。

午後は有志 5 人が前橋市柏倉町の当協会員の本木太氏の自宅を訪問しました。きれいに間引きされた家の周りの森林には種々の花木の植栽の他、遊歩道や四阿が整備され「六本木自然園」と名付けて、憩いの場として一般に解放しているそうです。家業のシイタケ生産の傍ら社会貢献として意欲的な取り組みをされており、81 歳とは思えぬ行動力に大いに刺激を受けました。

**第 9 期生会員交流会** 6 月 18 日(土) 総務企画部会

前橋プラザ元気 21 3 階会議室において 9 期生 7 名、理事 5 名が参加して第 9 期生会員交流会を行いました。協会設立からの歩みや本年度の活動の紹介のあと、全員で自己紹介して 9 期生代表を選出しました。

自然体験活動指導研修会 6 月 19 日(日) 第 3 回会員資質向上研修 総務企画部会

昨年度、小・中学校自然体験活動プログラム検討委員会(協会員 7 名)が作られ、「赤城を楽しむ 自然体験活動プログラム案内」を作成しました。

今回それを基に、講師 6 名が各テーマを分担し赤城少年自然の家周辺で 3 か所、覚満淵で 3 か所をそれぞれ設定して実施しました。参加者は協会員 18 名に一般(小中学校関係) 3 名と講師の計 27 名でした。4 グループがローテーションを組み、現場での実施とあってお互い熱のこもった研修がなされました。これからも資料が大いに活用されると良いと思います。



緑の窓

室沢交流の森の整備始まる

六期生 吉本 一夫



平成 23 年度の事業計画に基づいて、サンデンフォレスト内にある「室沢交流の森」の整備が 4 月 23 日（土）からスタートした。23 日は最初であり、協会員 24 名が参加した。大松顧問、サンデンファシリティ石倉代表、岡田事業部長、赤城自然塾小林事務局長から趣旨説明や紹介、挨拶を頂いた。午前中は林業機械専門家の篠原講師を招いて、刈払い機について講習会を行った。内容は各班に分かれて講師ご指導のもと、刈払い機を分解して掃除点検し、再度組み立てるという実践。使用前には・毎日すること・週 1 回すること・月 1 回すること等の基本を学んだ。さらにチップソーの種類や、砥ぎ方等も学んだ。作業をするには、刈払い機の手入れが不可欠であり、これから次回以降の整備に当たり使用前後には、必ず徹底していかなければならない。

今回の事業に際し、サンデンさんより機材・備品等を収納できる倉庫の提供と共に、駐車場の確保と整備をして頂き、さらに刈払い機、チェーンソー等も貸して頂けるなど改めて感謝したいと思います。

午後は、作業を始める前に、作業現場・倉庫・駐車場等を確認したあと、恒例の年度初めの安全祈願祭を大松顧問の音頭で執り行った。「何よりも安全を優先し作業をすることが大事である」。作業は（FG21）のベテランの方に各グループのリーダーになって頂き、安全な刈払い機作業の基本的事項 ①安全に作業ができる服装と保護具等を着用する ②刈払い機を正しく装着する ③正しい基本動作をする ④上下・接近作業（5m以内の立ち入り）禁止する ⑤キックバック・刈刃位置に注意するなど、実践しながら進めた。作業終了後は、次回以降進めるに当たっての問題点等の意見交換を行った。

笹を刈る作業が中心となるが、アズマネザサは太く、長く、刈ることは勿論、運び出すことも大変であるが、協会の皆さんの協力を得て、今後予定された日程で取り組みますので、参加して頂くよう宜しくお願い致します。

豆知識

群馬の植林ヒノキと天然ヒノキ

当協会理事長 亀井 健一

山腹に植林されたヒノキ

山の中腹に見られる常緑針葉樹林は、ほとんどが植林されたヒノキ林です。同じ樹種が並んでいて、植えられたものであることがわかります。ヒノキの材は耐朽性が大きく建築用材として価値の高いものであり、かつて積極的に広い面積に植えられていました。湿り気を好むスギは沢沿いに植えられていますが、ヒノキは山腹に植えられているのです。

Y字形の白い気孔帯で判別

ヒノキはヒノキ科の常緑針葉高木です。葉は長さ 1～3mm の鱗片状です。葉裏の葉と葉とが接するところに Y 字形の白い気孔帯があり、判別の手がかりになります。これに対しサワラは X 字形（またはチョウ形）、アスナロは W 字形です。クロベ（別名ネズコ）は気孔帯がはっきりせず、葉の表裏が同じように見えます。これらは葉がやや似た樹種ですが、気孔帯の形でも見分けがつくと思います。

乾燥気味の山頂や尾根などに自生

ヒノキは乾燥気味の山頂、尾根、山腹に生える特徴を持っています。赤岩岳、天丸山、諏訪山、笠丸山など上野村の山々の多くは、山頂部が岩峰や岩稜になっています。このような場所やその斜面に、ヒノキ、ツガなどの針葉樹が点々と生えています。場所が貧栄養地であること、他の樹種と混生していること、幹の太さが様々であることを考えると、植えたものではないことは明らかです。関東森林管理局は、天丸山の 119.35 ヘクタールを、「天丸山天然ヒノキ」と呼び「植物群落保護林」に指定しています。このように、西上州の山には天然のヒノキがよく見られます。

本県における天然スギの分布は、確認されていないようですが、天然ヒノキは古い地質帯の多野山地、甘楽山地、足尾山地などに見られます。ただし足尾山地のものは逸出の可能性もあると考えられています。



天丸山の天然ヒノキ

＜ヘビの話＞ 第7回

ヘビの脱皮

財団法人 日本蛇族学術研究所長・医学博士 鳥羽通久氏

ヘビでよく知られている現象に脱皮がある。トカゲも脱皮をするが、部分的に破れてはがれていくので、あまり目立たない。この点ヘビは、条件さえ良ければ、全身で1枚の脱け殻が残る。ヘビの脱皮を、昆虫の脱皮と同じに考えている人がいるが、昆虫の場合は厳密に脱皮の回数が決まっており、それによって成長できるが、ヘビの場合は、皮膚の新陳代謝の意味合いが強い。

ヘビは、生後1週間くらいで最初の脱皮を行い、以後は2、3ヵ月おきくらいに脱皮する。鱗の形や配列は、脱皮によって変化しないので、野外で脱け殻を見つけた場合、鱗の数などを観察する事で、種を決定できる。ただし、大きさには注意が必要で、脱け殻の場合、鱗と鱗の間の部分が伸びてしまうので、実物よりもだいぶ大きくなる。全長が最大で1、2倍くらいまで伸びると思えばよい。マムシやシマヘビでは、胴体の斑紋も薄く残るが、それ以外の種でははっきりしない。



孵化直後のネズミヘビ。脱皮前で、目の部分が青白く濁る。

＜協会の声＞

自然の中へ

九期生 赤津 喜八郎

先日、友人と久しぶりに山歩きをしました。彼は花・鳥・木と知識が豊かな人で、私は何時も羨ましく思っています。山歩きの時、私は彼の後を付いて楽しい一日を過ごしています。その知識はどこから来るのかと思いきや、彼の奥様が彼の先生です。別名、歩く植物図鑑です。夫婦二人でいつも仲良く学んでいます。

私も「ぐんま緑のインタープリター自然の解説者養成講座」を受講して、「学びましょう」と言う扉を開いていただきましたので、その入り口に立って学んでいる訳です。今はヨチヨチ歩きですが、「学ぶことに遅いはない」が私のモットーでして、これからも頑張ります。

受講後、変化がありました。今まで、ただ歩いていた散歩コースが花や鳥などの観察コースに変わりました。帰宅してから図鑑で調べたことも、たま～にあります。気に入ったものしか調べません。他は見向きもしません。ずる～いですね。其れはそれとして、よいとしましょう。

ゆっくり、ゆっくりと自然の中に入って行こうと思っています。

今年は協会員、新人生です。研修会が楽しみです。積極的に参加して、レベルアップを目指します。その結果を何かに役立てれば幸いです。



＜協会が実施する事業・研修会等＞

| 実施日 | 内容 | 会場 |
|---------------|---------------------------|------------|
| 平成23年7月9日(土) | 室沢交流の森の森林整備⑤ (サンデンフォレスト内) | 室沢交流の森 |
| 平成23年7月9日(土) | 研修4 赤谷プロジェクト現地研修会 | 赤谷の森 |
| 平成23年7月17日(日) | 研修5 御荷鉾森林公園自然観察会 | 御荷鉾森林公園 |
| 平成23年7月23日(土) | 室沢交流の森の森林整備⑥ (サンデンフォレスト内) | 室沢交流の森 |
| 平成23年7月24日(日) | 前橋パイロット事業① 水鉄砲作りとゲーム | おおさる山乃家 |
| 平成23年7月31日(日) | 森の体験① 木工体験 | 赤城木の家 |
| 平成23年8月6日(土) | 夏休みキッズフェスタ 2011 | 前橋プラザ元気 21 |
| 平成23年8月13日(土) | 室沢交流の森の森林整備⑦ (サンデンフォレスト内) | 室沢交流の森 |
| 平成23年8月14日(日) | 森の体験② 草木染め | 赤城間伐学習館 |
| 平成23年8月20日(土) | 前橋パイロット事業② 川の中の生き物 | おおさる山乃家 |
| 平成23年8月27日(土) | 室沢交流の森の森林整備⑧ (サンデンフォレスト内) | 室沢交流の森 |
| 平成23年9月10日(土) | 室沢交流の森の森林整備⑨ (サンデンフォレスト内) | 室沢交流の森 |
| 平成23年9月11日(日) | 森の体験③ 自然観察会 | さくらの里 妙義山 |
| 平成23年9月24日(土) | 室沢交流の森の森林整備⑩ (サンデンフォレスト内) | 室沢交流の森 |
| 平成23年9月25日(日) | 森の体験④ 自然体験活動指導研修会 | 赤城山 |

＜編集後記＞

今年度から6つの自主研究会が発足しました。若々しい新緑から落ち着いた深い緑へと季節が移り変わるように、当協会も更なる充実へ向けて確かな歩みを進めています。(HO)